

長崎県地学会誌

第 49 号

1989

目 次

研究報告

諫早市西諫早付近の第四系

—とくに古貝津湖層と火山灰層の分布— ……阪口 和則・西村 暉希・堀口 承明…… 1

斑晶鉱物からみた長崎市金比羅山の火山岩類 ……布袋 厚……19

部分日食の太陽面投影図による考察

—1987年, 1988年の部分日食— ……阪口 和則・生嶋 まり・村尾 千里

八木原 寛・初手 和宏……26

随 想

私の歩んだ地学の道 ……小林 茂……38

抄 録

NESA Abstract No. 088-093 ……42

雑 録

地域に根ざす 長崎県地学会 (文明のクロスロード Museum Kyushu 26) ……鎌田 泰彦……44

長崎県地学会記事 ……表紙2, 3

平成元年 3 月

長崎県地学会

長崎県地学会誌投稿規定 (抄)

I 一般的な事項

1. 投稿原稿の種類は次の通りとする。
研究報告 (原著論文)
地学教育・地学教材研究
日曜地質巡検会記事
海外・国内視察報告
随想
書評・資料紹介
抄録 (NESA Abstract)
その他
2. 原稿の長さは、図表を含め、原則として刷り上り10ページ以内とする。
3. 会誌の発行は、年2回とする。

II 原稿作成要領

1. 原稿用紙は400字詰、横書き用(できるだけA4版)を使用し、楷書で横書きにする。
2. 原稿の初めに表題、著者名および所属機関名を記す。また、表題の英訳と著者名のローマ字書きを添える。
3. 句読点は、。または、. を用いる。
4. 句読点、その他の記号などは1字として1ますをとる。
5. 外国字はタイプライトするか、活字体で手書きとする。手書き場合には、1ますに大文字は1字、小文字は2字の見当で書き入れる。
6. 原稿は、黒か青のインクかボールペンで記入するか、または明瞭な鉛筆書きとする。
7. ワープロ使用の場合には、1枚の用紙(A4版か、B5版を使用)に、横書き1行20字、1ページ20行の書式設定で印刷することが望ましいが、1行25字の16行、1行40字の10行のように、1ページ400字単位にまとめる。1行20字

の場合には、とくに文字ピッチが広がりすぎないように留意されたい。(本会誌は400字を単位として割り付けを行っているので、この編集方針にご協力願いたい。)

III 図・表・写真・図版

1. 図・表・写真は、原稿用紙とは別にし、それぞれ順番を示す番号を付す。本文中の挿入位置は、原稿用紙の該当部分にその番号をもって、欄外に記入する。
2. 図は白紙(トレーシング・ペーパーが最適)に製図用インクかロットリングで明瞭に、かつ体裁よく製図する。
3. 地図類の場合には、何分の1とししないで、縮尺(スケール)を図の中に記入する。
4. 図・地図類は、刷り上がりが1ページ大で、幅14cm、高さ21cmとなるので、この範囲の1/2(横長)、または1/4(縦長)に縮小されてよいように原図を調整されたい。図中の文字や記号は、この範囲に縮小されても充分読み取れるように記入されたい。
5. 写真はコントラストの強いものであれば、白黒・カラーの別を問わない。ただし、カラー印刷は特別の場合以外は、当分の間受け付けない。同系統の写真が多数ある場合には、なるべく6枚か8枚を一括し、本文の後に図版としてまとめるのが望ましい。

その他の「投稿規定」については、1987年度の「会員名簿」を参照されたい。また、既刊の会誌の印刷形式を充分参考にして原稿を作成して頂きたい。